

防衛大学校同窓会機関誌

小原台だより



Vol. 6

平成11年1月1日
発行 防衛大学校同窓会

編集 熊倉惟晴 矢野幸治 川嶋隆志
印刷 (株)エイコープリント



ご挨拶



防衛大学校同窓会会長
小西 岑生

同窓生の皆さん、新年おめでとうございます。今年も平和の内に新しい年を迎えることができましたことを、皆さんとともに慶びたいと思います。

同窓会会員の大部分が現職の自衛官ですので、正月を勤務に就いたまま緊張の内に過ごされた方も大勢おられると思います。また、遠く日本を離れた土地で元旦を迎えられた方も多いことでしょう。昨年新たに会員となった防大第42期の同窓生は、幹部任官を目前に希望に胸を膨らませつつも、若干の不安を感じながら平成11年のスタートをきられたのではないのでしょうか。今年の世界情勢がどのように推移し、その中で日本が如何なる役割を果たすことが出来るのか予測することは困難ですが、それぞれに全力を尽くして、1900年代最後の年をやり多き一年としたいものです。

さて、昨年1年間の同窓会の活動を振り返って見ますと、本部を中心とする会の運営については、遅々とした歩みながらも少しずつ前進を続けてきたように思います。本部事務局が市ヶ谷に移転してから1年半が経過しましたが、準備した会議スペースも同窓生によって少しずつ活用が図られるようになり、本部を訪れる会員も増えてきました。また、名簿の発行に伴う会員データの充実も進みました。経費の増大と金利の低下による予算不足の

懸念も、9年度の決算(別掲)は一応黒字を計上することができました。樂觀は禁物ながら、余り悲觀的にならなくても済みそうです。これ等のことは、会員の皆様のご理解を支えに、各理事や事務局の人達が創意工夫を重ねつつ献身的にご尽力頂いた賜であり、深く感謝しております。支部組織の充実と活動の活性化は、なお今後の課題として残っており、先にご承認を得て改正された会則及び細則の再度の手直しも必要になると考えております。

防衛大学校創立50周年記念事業については、引き続き委員会において精力的に取り組んで戴いており、別掲の委員長報告の通り具体的な姿が見えてきました。この事業は、少なくとも2002年までは継続するものであり、従って、本事業を支える同窓生の範囲は、同年卒業予定の第46期生までと考えております。その後の期は21世紀半ばの創立100周年を担当してもらうことになりましょう。また、事業の推進においては、必要の都度代議員会の承認を得て進めて参りますので、会員各位も関心を持ってご意見等をお寄せ下さい。

今冬は、ここ一兩年に比べて寒気厳しいと予測されています。会員の皆様の益々の御発展と御健勝を心から祈念申し上げます。

目次

会長挨拶

防大の現状と将来

防大創立50周年施設整備事業……………1

学生所感……………3

平成10年度校友会活動状況……………4

同窓会行事……………5

第2回防大同窓会期別対抗ゴルフ大会

第1回防大同窓会期別対抗テニス大会

防大校内競技カッター

防大50周年同窓会記念事業について……………7

同窓生アラカルト

国際貢献・国際会議……………9

防衛交流(私の中の国際化)

ブルーインパルスIN長野オリンピック……………11

期生会だより……………12

地区だより……………15

平成9年度防衛大学校同窓会決算報告……………16

平成11年度防衛大学校同窓会予算……………17

事務局からのお祝い・お知らせ……………18

表紙

新しいシンボルタワー(給水塔)

防大の現状と将来



防衛大学校創立50周年記念事業については、前年度紹介したが、ここで再度その概要を紹介する。防衛大学校は、将来、幹部自衛官となるべき者を教育訓練する機関として、昭和27年に設立され、平成14年（2002年）には創立50周年を迎える。この50周年を記念して、記念事業を実施することを計画し、既に検討が開始されている。記念行事としては以下のものがある。

- ①施設整備事業
- ②電算機の利用による全学的な情報システム
の整備
- ③歴史資料、卒業生の足跡等を展示する資料館の設置
- ④50年史の編纂

今回は施設整備事業についてより詳細に紹介する。

平成9年11月、灰青色と白色の軽快なコントラストの外装に身を包んだ給水塔ができた。塔は高さ50メートル、前面と背面に校章が鮮やかに飾られている。本来の機能は、給水塔であるが、将来は立派なシンボルタワーとなるものである。

創立50周年に向けた施設整備事業は、本館から図書館に至る中央部地区のリビルドであり、中央部地区は全く新しく生まれ変わるようである。給水塔の立て替えは、その施設整備事業の先駆けをなすものである。

中央部地区整備の基本コンセプト

防衛大学校の施設は我が国の防衛

の任に当たる自衛隊の幹部自衛官を育成する建学の目的、精神にふさわしい威容を持ったものでなければならぬ。諸外国の士官学校を見ても、それぞれ国家の象徴としての地位と名譽を与えられている。その中心となる本館等は、それぞれの国の安全保障にかける意気込みを示すものになっていて、必ずしも豪華ではないが壯麗であり、簡素な中にも肅然たるたたずまいを示し、そこに学ぶ士官候補生やそこを訪れる人達に、自然と心身が引き締まり、また伝統と誇りを感じさせるものとなっている。本館を中心とした建物群には、士官学校のシンボルの役割を担っていて、景観も優れたものとなっている。これから進められる中央部地区の整備は、我が国の防衛にかける意気込みと誇りを示し、かつ本校卒業生の故郷として偲ばれる施設となるものである。

本部庁舎

本校の中核機能を果たす施設であり、本校正面の現在地に整備することとし、現在欠落している交流機能及び渉外機能を整備するとともに、現在校内に散在している食堂、売店、厚生課事務室、車両事務室、電話交換室等の施設を集約する。

人文科学館

人文科学教室及び外国語教室は、一般教養の主要部分を担当する教室であることから、引き続き中央部地区に整備することとし、語学教室センター等を整備し、現在2棟に別れているものを1棟に集約する。

図書館

現人文科学館跡地に整備する。図書館は地下1階地上1階の構造とし、保存書庫に関する施設は地下1階に整備し、地上1階は主として閲覧室等として使用する。屋上は、本部庁舎の1階と同じ高さになるように計画し、緑のある広場として有効に活用する。

情報館

図書館に隣接して整備することとし、情報

通信・処理機能を取り込んだ総合的な教育支援施設とし、さらに管理機能を付加して図書館と情報館とが、体化した図書・情報センター（仮称）を形成する。

多目的講堂

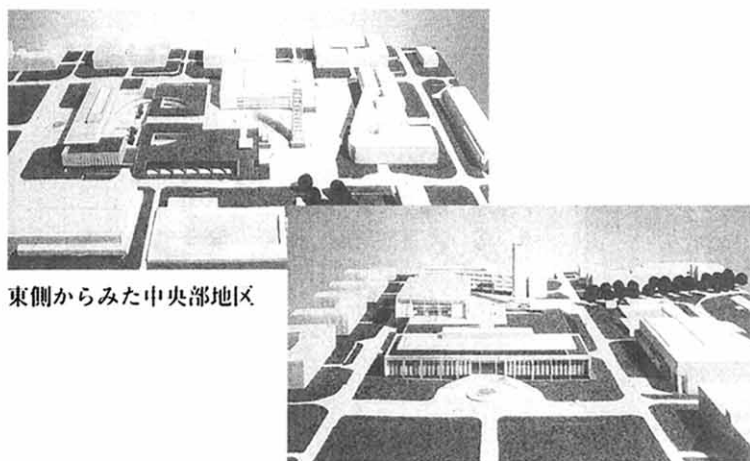
入校式、卒業式、各種講演会、国際会議、その他文化活動等他用途に活用することとし、施設規模は全学生が収容可能な規模とする。

広場

用地の有効活用のため、図書館及び情報館の屋上を自然環境と調和した広場として整備し、人的交流及び憩いの場を形成する。

給水塔

広場北西角地の学生通りが見渡せる場所に整備することとし、将来にわたり本校のシンボルとなり得るような景観と機能を備えたものにする。



東側からみた中央部地区

正面からみた中央部地区

人は空に夢を見る。

三菱重工業株式会社

航空機・特車事業本部

東京都千代田区丸の内2-5-1 〒100-8315 ☎東京 (03) 3212-3111

副校長 北野 昌 則

2期(陸)

第3期生を迎える1955年の春完成した校舎は、質素な中にも整然としたたたずまいで戦後の復興が緒に上ればかりの当時は白亜の殿堂として羨ましがられる存在であった。小原台が防大の敷地として選ばれた理由は、幹部自衛官となるべき人材を養成するに相応しい場所として、我が国の象徴である富士山が見えること、島国の防衛に欠かせない海に近いこと、情報入手が容易で、かつ優れた教授陣が整備できる首都に近いことの3点と言われている。しかしながら、回りを海に囲まれた小原台は想像以上に塩害による老朽化が激しく、また科学技術の急激な進歩や国際化が進む中であって構造的にも機能的にも立て替えの時期にきている。小原台上の建物の延べ面積は約18万平方メートルあり、現在の予算規模でこれらを全て立て替えるためには4半世紀近くを要することになる。新しい時代に相応しい防大の施設を整備するには、小原台全域をカバーした長期的な視野のもと、統一的なコンセプトを構築して整備を進めなければならない。

東に房総半島、西に富士山、眼下に東京湾を眺望でき、観音崎固定公園と隣接した風光明媚な自然環境と調和を取りつつ、我が国の防衛の任に当たる自衛隊の幹部自衛官を養成する建学の精神、目的に相応しい壮麗さと厳肅さを持ち合わせた風格のある施設にしなければならぬ。ここで学ぶ学生はもとより、ここを訪れる人々にも我が国の安全保障にかける意気込みと、誇りを感じさせるものでなければならぬ。諸外国の士官学校を見ても国防という崇高な使命と名誉に相応しい威容を持った施設が整備されている。

防大は2002年の50周年記念を迎えるまでに、中央部地区(本部庁舎、人文館、中講堂、旧図書館、時計台等)の整備を行う計画である。中央部地区は本校の象徴的存在であり、中枢機能が集中している。本館や多目的

講堂に国際交流のための機能を持たせ。高度情報化時代への対応など地域社会との交流に配慮することも重要である。この中央部地区を中心として、教育・研究ゾーン、生活ゾーン、訓練・運動ゾーンが広がっている。空間的にも中心部となるこの地域は、高い建物によって本館や教場と学生舎が分断されるのをさげ、地下2層構造とした図書館屋上には、開放感のある記念広場を造り、教職員と学生の交流や憩いの場として利用されるよう設計されている。特に記念広場に隣る時計台を兼ねた近代的シンボルタワーは本校卒業生の心の故郷となるであろう。また旧図書館の一部を利用した教育資料館も準備されており、本校の歴史を後世に伝えるとともに、学生の情操教育にも一役買うことになる。中央部地区の整備が完了した後は、ゆとりのある学生舎の整備を急がねばならない。



ISUZU
THE SUV SPECIALIST

American Blood
WIZARD

BELLCOM <http://www.isuzu.co.jp> Bell Fax ☎ 0120-740-050 Bell Call ☎ 0120-667-050
●2期(陸)は防大の職員会館に隣接する自動車科教室が本館の隣にあり、本館の隣にはTEL 03-5471-1180



155mm 榴弾 FH70

国の安全と平和に 寄与する技術

素材とメカトロニクスの総合企業
JSW 日本製鋼所

東京・日比谷三井ビル ☎ 3501-6111 (大代表)
ホームページ: <http://www.jsw.co.jp>

● 中期学生隊学生長 第323小隊
第4学年 航空要員 松永 善光

最近、私は防大生という自分自身の存在意義について考えます。我々の中で、自分自身の存在意義を否定的に思う意見が多数あるからです。「防大設立の目的は幹部自衛官を育成するためである」と、何度も聞きました。この言葉は、防大生の一員として全員が胸裏に焼き付いています。しかし、防大入校時においては馴染みのない言葉であり、今までの生活習慣からは考えることがなかった切実な将来の姿を、脅迫的に押し付けています。そのため、防大生としての位置づけを暗記するかのようになり、本質を追及しないままに日々の生活を送っている現状があります。そのような状態のため、防大生としての責任感が薄れてきたように思います。つまり、防大生としての義務は何かを知り、本分を果たし、自分自身が模範となり、人によく従うことが敬遠されています。例として、規則を知って規律違反をする者、規律違反していることが思われない違反する者の割合が増加していることが挙げられます。

● 前期第4大隊学生長 第442小隊
第4学年 陸上要員 梅山 みゆき

「防大の現状と将来」というテーマでの投稿依頼を受け、私は「4人部屋編成」という観点から書かせていただきました。1学年から4学年までの混合編成で、昨年度からスタートした4人部屋は、これを最小単位の組織、または家族と見なすならば、理想的な編成であります。4学年を長、3学年を補佐とし、学年は上下関係の厳しさを学びます。1学年は、上級生に対する気配りを学び、最下級生としての辛さを味わい、2学年は自ら下級生に模範を示しつつ、人を育てる術を身に付けていく。3学年は中間管理職の立場で上下間の調整を図り、長の目的に届かない部分をフォローし、そして4学年は、下級生の目がある手前、最上級者という立場に奮ります。自己を律しざるを得ず、最小単位のリーダーシップを発揮する場を与えられます。また、これを一つの家族と見なすならば、3・4学年が年長の役割を果たし、厳しく躰けつつも、温かい目で1・2学年の成長と心情を見守ることができま

● 校友会学生委員長 第441小隊
第4学年 陸上要員 吉田 晴彦

現在防衛大学校内ではそのハード、ソフト両面においてさまざまな改良がなされているのは皆さんが御存知のとおりですが、それと同じように50周年を目標として、校友会にもその活動体系から組織体系まで広範にわたって改革のメスを入れようとしています。この活性化の問題ですが、現在までにすでに改革に関するさまざまな試みがスタートとなり、将来的な校友会の組織の書き直しより魅力的なものとしてという根本概念があります。

● 校友会学生委員長 第441小隊
第4学年 陸上要員 吉田 晴彦

又を反映した活動体系をとり、それにより学生の積極的な姿勢を引き出しやすく、そこから校友会の活性化を目指すというものでした。紙面の関係上詳細については割愛させていただきますが、以上で学生の「こころ」も「こころ」も「こころ」という意見や、「校友会はあくまでも学生生活の3本柱の一つとして頑張る」という意見や「いやむしろ学業に力を注いでいたい」という一二年までよく多くを力入れてくれる校友会の体制にしようとするを進めていきます。

学生感想

● 学生隊綱領委員長 第442小隊
第4学年 陸上要員 遠藤 智明

時が過ぎるのは本当に早いもので、私の小原台における学生生活も、あと半年を切つてしまいました。私は今でも、大きな期待と不安をもって着陸した時の事を、つい昨日のことのように思い出します。さて今回、防大同窓会の会報に「防大の現状と将来」という題で文章を投稿する機会を与えていただきましたが、私が綱領委員会の活動を通じて、感じたこと、思ったことについて書こうと思えます。

● 前期第4大隊学生長 第442小隊
第4学年 陸上要員 梅山 みゆき

「防大の現状と将来」というテーマでの投稿依頼を受け、私は「4人部屋編成」という観点から書かせていただきました。1学年から4学年までの混合編成で、昨年度からスタートした4人部屋は、これを最小単位の組織、または家族と見なすならば、理想的な編成であります。4学年を長、3学年を補佐とし、学年は上下関係の厳しさを学びます。1学年は、上級生に対する気配りを学び、最下級生としての辛さを味わい、2学年は自ら下級生に模範を示しつつ、人を育てる術を身に付けていく。3学年は中間管理職の立場で上下間の調整を図り、長の目的に届かない部分をフォローし、そして4学年は、下級生の目がある手前、最上級者という立場に奮ります。自己を律しざるを得ず、最小単位のリーダーシップを発揮する場を与えられます。また、これを一つの家族と見なすならば、3・4学年が年長の役割を果たし、厳しく躰けつつも、温かい目で1・2学年の成長と心情を見守ることができま

平成10年度運動系校友会活動結果及び部員数状況

校友会名	成績	部員数		校友会名	成績	部員数	
		男子	女子			男子	女子
短艇委員会	全日本カッター競技大会4位	78		ボクシング	関東大学ボクシングトーナメント3部	44	3
バスケットボール	男子 関東学生リーグ6部7位 女子 神奈川リーグ2部3位	34	12	レスリング	フェザー級準決勝進出		
柔道	神奈川県学生柔道秋季大会4位	27	2	ボート	東日本学生レスリングリーグ2部A5位	25	
ラグビー	11月30日以降に決定	167		フィールドホッケー	東日本大学選手権競漕大会エイト2位	15	
サッカー	神奈川県リーグ戦1部5位	55	1	ワンダーフォーゲル	秋季関東学生ホッケーリーグ1部6位	28	9
剣道	神奈川大会個人優勝 大崎 神奈川青少年剣道大会優勝 大崎	41	6	パラシュート	奥多摩 槍ヶ岳 妙義山 落下傘スポーツ日本選手権大会ジュニアの部	17	1
空手道	春季関東リーグ団体1位	61		準硬式野球	優勝 多田 準優勝 高良 神奈川六大学準硬式野球春季リーグ1部4位	44	
バレーボール	全国国公立大学選手権8位			合気道	全日本学生合気道演武大会出場	48	3
	男子 秋季関東バレーボール戦5部4位	13	9	弓道	秋季南関東リーグ戦1部4位(男子)	34	5
	女子 秋季関東大学女子バレーボールリーグ戦12部昇格				2部3位(女子)		
卓球	秋季関東学生卓球リーグ戦5部2位	22		少林寺拳法	少林寺拳法関東学生大会団体演武の部最優秀賞	31	1
陸上競技	関東理工系学生陸上競技大会	59	8	フェンシング	関東学生リーグ(エペ、サーブル)3部昇格	31	
	男子団体3位 女子団体2位			ウェイトリフティング	神奈川県社会人ウェイトリフティング選手権大会	23	
硬式庭球	関東理工科リーグ7部4位	40	12		69キロ級1位 潮村 85キロ級1位 今泉		
硬式野球	神奈川大学野球秋季リーグ2部優勝	33		相撲	全国国公立大学対抗相撲大会団体4位	13	
射撃	秋季関東学生ライフル射撃選手権大会2部3位	15	2		東日本学生相撲リーグ戦 3位		
水泳(水球)	関東学生水球リーグ2部22位	19		バトミントン	関東大学バドミントン秋季リーグ	18	10
水泳(競泳)	東部国公立大会団体4位	20	3		6部3位(男子) 5部5位(女子)		
	個人メドレー優勝 相馬			自動車	全関東学生ラリー選手権大会プライベート1位	13	
ハンドボール	関東学生リーグ秋季大会6部2位	37		グライダー	久住山岳滑翔大会3位 手塚	26	7
アメリカンフットボール	関東学生リーグ2部2位	98		山岳	穂高連峰 三つ峠山 立山連峰剣岳	12	2
ヨット(クルーザー)	学生ヨット世界選手権予選2位	15	1	吹奏楽	定期演奏会	24	3
ヨット(小型)	関東学生春季ヨット選手権大会決勝20位	28	1	儀じょう隊	自衛隊音楽祭り	42	3
銃剣道	全日本銃剣道大会優勝	30	2	居合道	居合道個人段別競技会出場	17	3
ソフトテニス	関東学生ソフトテニス秋季リーグ戦9部4位	27	3	体操	東日本学生体操競技グループ選手権大会団体13位	18	4

航空・宇宙・防衛分野で貢献しています。

ハイテック商社
株式会社 山田洋行

TOSHIBA E&Eの東芝

人と、地球の、明日のために。

東芝グループ

株式会社 東芝 〒105-8001 東京都港区芝浦1-1-1 (東芝ビルディング)

第2回防大同窓会期別対抗ゴルフ大会

平成10年10月27日久々の爽やかな秋晴れに恵まれた奥武蔵の丘陵に、かつて小原台で寝食を共にした仲間が全国各地から相集い、第2回期別対抗ゴルフ大会が心温まる小西同窓会長の開会挨拶と共に開始された。競技は1期から8期までの各期10名代表選手により実施され上位7名のスコアの合計をもってあらそわれた。

15時頃から各組の皆さんが順次ホールアウトされ、得意満面の笑顔の人や精魂使い果たして喘ぎ喘ぎアテストのデスクに辿り着く人であふれたが、倶楽部の若々しく爽やかな対応の女性点検官のお嬢さん方の前では最後の元気を奮い起こし真面目に素直に点検を受けていた。最後の組みがホールアウトしたのが16時を大分過ぎており、その後全データの処理を行ったこともあり、パーティ開始までには成績データ表は出来上がらなかったが、関係各位の絶大な協力のもと17時を過ぎてやっと完成し、成績発表並びに表彰式を取り行うことが出来た。正に滑り込みセーフであり、反省すると共に今後の要反映事項である。結果はグロス優勝したのは6期生チームでベスト7人のグロス計は564でした。また、ネット優勝したのは今回初参加した8期生チームでベスト7人のネット計は507・6でした。因みに今回の大会でのベスト・グロスは4期生の新田務さんで75でした。また同じくベスト・ネットは1期生の城尾百男さんで68でした。

更に何よりも素晴らしいのは選手80名と役員4名の全員が事故もなく本大会の全てを暖かさで笑顔のうちに完遂できたことである。秋の日は釣瓶落とし、全ての事務処理を終



優勝した6期生チーム

わって既に暗くなった駐車場で運転席に座り、今日のお天気のようにさわやかな気持ちでエンジン・スタートできたのも全く皆さんのお陰と心から感謝いたします。ときに17・5結構早く終わることができました。

グロス (ストローク) ネット (ストローク)

1位 6期生 564	1位 8期生 507.6
2位 8期生 572	2位 2期生 508.6
3位 2期生 575	3位 6期生 509.4
4位 4期生 582	4位 1期生 510
5位 3期生 587	5位 5期生 512
6位 5期生 589	6位 3期生 514.8
7位 1期生 601	7位 4期生 514.8
8位 7期生 603	8位 7期生 520.4

第1回防大同窓会期別対抗テニス大会7期が優勝

防大1期貫録の準優勝

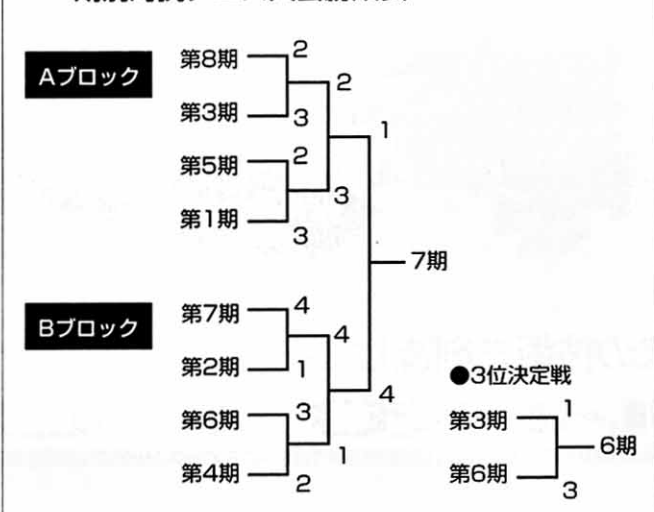
防大同窓会主催の第1回テニス大会が、6月28日母校防衛高等学校のテニスコートで実施された。

梅雨時の真最中であり、天候は前日までどちらに転ぶか分からない状況であったが、当日は参加者全員の熱意が通じたのか、絶好のテニス日和となり、1期から8期までの各期ダブルス5チームによる団体戦トーナメント方式で実施された。

今回の企画は、同窓会本部事務局員の担当者で防大硬式庭球部の創設にも尽力された2期の井川氏(海)を中心に準備が進められ、各期の代表との事前の綿密な調整により大会運営も極めてスムーズに実施された。また4期で現在防大教務部長の金井氏が硬式テニス部の部長をされている事もあり、学生諸君の支援も得る事が出来、試合の合間には、新設された防大のシンボルタワーとも言つべき時計台の見学等まで面倒を見ていたことができた。大会は、開会式で小西同窓会長(1期海)のユーモア溢れ、かつ開会を盛り上げるに相応しい挨拶の後、事前の抽選により決められた組み合わせにより開始された。

Aブロックでは、一部現役の会員も混じる8期が、3期に破れ、持ち駒豊富な5期も選手1名不足のため、11人が2回も戦つと言うハンディをもつともしない1期に破れると言う波乱の幕開けとなった。1期は若手8期を破り、勢いに乗る3期も接戦の末下し、決勝戦に駒を進めた。一方Bブロックでは、優勝の呼び声高かった2期が、これまた質、量ともに豊富な7期と1

期別対抗テニス大会勝敗表



回戦で当たり、技の2期を若さの7期が破った。4期は教務部長も自ら出場して6期と対戦したが、僅少差で6期に軍配が上がった。準決勝は、年齢的にはほとんどハンディのない6期と7期の対戦となったが、優勝候補の2期を破り勢いに乗る7期が接戦をものにし決勝へ進んだ。

夏の炎天下、相当疲労も溜まっている中で決勝戦は、6歳の年齢差のある若手7期の豪勝かと思われたが、これが60歳半ばの人の体力かと思わせるような1期の動きに翻弄され、結果的には4対1での7期の勝利であったが、内容的にはかなり接近したゲームであった。遠く徳島からこの日のために駆け付けた、真木氏(1期海)はコートの外では足を引きずっているの



優勝した7期生チーム

に、一度コートに入るや右に左に球を打ち分け奮闘しているのが極めて印象的であった。
7期は昨年の同窓会ゴルフ大会に続いての優勝であり、来年は各期が打倒7期を目指し強力メンバーを組んで挑戦する事となろう。
試合終了後、学生会館で北野防大副校長(2期)及び支援に当たった硬式庭球部の学生を交えての表彰式及び懇親会が行われ、各期の代表が一言ずつ反省と、来年への抱負を述べ、かつ来年も防大での大会に参加する事をお互いに誓いあい、盛会のうちに第一回のテニス大会は終了した。
60歳前後の大先輩の活躍を目のあたりにした学生の間では、これから先40年位は十分にテニスを楽しめることがわかったとの声も聞かれた。

防大校内競技 カッターの OBクルーの参加

平成10年4月28日、競技は南西の風(5m/秒)と比較的荒れ模様の中で行われました。天気予報では、当日、前線が関東の南辺に停滞し、それに南から湿った大気が吹き込み、局地的には雷雨、南岸は大雨という本当に最悪(漕ぎ手のみならず応援者にとっても)のものでした。

従って、同競技予定より遅れ気味となりましたが、丁度それが幸いしOB艇の競技が始まる頃には、風は結構吹いておりましたが雨も上がってコンディションとしてはまあまあ状態となりました。

スタートは相手(女子艇2隻)を先攻させる余裕の発進?になりましたが、スタート直後の力強い漕ぎさばきにより、開始後約100mの地点では先頭を切り、小西会長他海自現職の力強い応援(今回の競技に際し横須賀警備隊所属の交通艇が応援艇として派出された)のもと、700mの地点では、20挺身近く水をあげ、終盤はその差をキープ(何故か差が開かなくなり、パテギみであったのと大差から来る気の緩み)したまま大差でゴールインしました。

その後、走水荘に場所を移動し、懇親会を実施致しました。何とか女子クルーに負けないうのがレース後の感想でした。



力漕するOBクルー

防大卒業留学生 歓迎夕食会

防大を卒業した留学生を開校祭に合わせ母校防大に招待するプロジェクトも今年で9年目となりましたが、今年と同窓会として初めて卒業留学生4名の歓迎夕食会を11月13日東京で開催しました。

夕食会は、同窓会本部君嶋会長代理がホストとなり、タイ王国海軍ウィナイ大佐(28期生)、タイ王国陸軍ソムチャイ少佐(33期生)、シンガポール陸軍チュー少佐(34期生)、同ウン大尉(38期生)の4名及び在日タイ王国駐在武官スリヤン大佐(陸幹CGS 38期生)をゲストとし、同窓会本部及び元在日防衛駐在官等関係者が出席しました。

夕食会は、留学生の在校間の思い出話から卒業後の活躍ぶり、さらには司馬遼太郎論など文学論議まで及び和やかに行われ、終わりに会長代理から記念品の盾が贈呈されました。またこの間、留学生の卒業帰国後の同窓会との連携要領についての貴重な意見も頂戴することが出来ました。

防大留学生の受入れは、将来、在校生の5%、10カ国以上にもなる計画がある由で、その卒業生との連携は益々重要となるものと思われま



新時代の技術を創造して行く

FHNEROSPACE 富士重工業株式会社

実行委員長 佐久間 一

平成十一年の年が明けて、防大創立五十周年の節目を三年半後に迎えることになりました。

これに合わせて計画されている同窓会の記念事業の現状を会員の皆様に御報告するとともに、今後の御協力をお願いする次第であります。

1 募金状況

平成九年四月に開始した同窓会の募金活動に対して、平成十年十月までに約五千六百名の会員から寄せられた金額は、約八千二百万円、拠金率は約三十四%に至りました。一年前の実績である総額約四千五百万円、拠金率約二十%と比較すると、平成十年の一年間に約二千四百名の同窓生が三千七百万円の浄財を拠金して戴いたことになり、皆様の御協力に深く感謝致しております。なお拠金の細部は別表のとおりです。

2 防大の施設整備の状況

防大当局による記念事業としての施設整備は、財政事情が厳しい中で関係者の尽力によりほぼ当初の構想通り進捗しております。給水塔（シンボルタワー）は、既に完成して東京湾上からもその姿を望むことができ、また人文科学館及び本部庁舎の建替は、それぞれ平成十一年及び十二年末の完成を目指して作業が進められています。

モニュメントの設置場所となる多目的講堂（記念ホール）は、平成十一年度から三年間の工期で整備すべく予算要求中でありその設計図から完成後の壮観を想像することができません。顕彰室の設置が予定されている現在の図書館は、その改修の前提となる図書・情報

館の新設が平成十二年度から三年間で行われる予定です。

3 同窓会記念事業の準備状況

同窓会の記念事業の中核であるモニュメントの設置については、現在までにその構想が固まりました。

平山邦夫画伯（平成十年 文化勲章受章者）に原画作成の快諾を得たことは既に御報告したところですが、防大の施設整備計画の確定を受けて、平成九年秋に清家先生（元防大教授、元日本建設学会会長）に御支援を戴くことをお願いし快諾を得ました。その後、同先生、防大当局、多目的講堂の設計事務所と記念事業委員会との数度にわたる協議と、清家先生の二回にわたる防大訪問を経て、モニュメントの設置位置と規模が定まりました。場所は多目的講堂の正面であり、大きさは横六メートル、縦五メートル程度になります。また、昼間は外部からの自然光、夜間は講堂内の照明によって、屋内外から眼の当たりにすることができま。

モニュメントの構造は、千年にも至る長期間の保存に耐え得ることと平山画伯の御意向からステンドグラスに決定しました。その原画のモチーフについては、平成十年十月に平山画伯と関係者が直接協議した結果、防大生歌の内容と防大創設場所選定の経緯から「緑・海・空・富士山」というイメージで構図を固めたとの画伯の言葉を頂きました。

ステンドグラスの制作は、鹿島資料館及び横浜国際会議場のステンドグラスを平山画伯の原画に基づいて作成した実績のある日本交通文化協会から、防大記念事業の趣旨を十分に認識した上でこれに携わることの申し出がありました。同協会の見積もりによると、前記の規模のステンドグラスの制作、設置に要する費用は、約三千万円以内に収めることができます。

以上の経緯から、平成十三年暮には、防大

同窓会の寄贈によるステンドグラスが小原台に建設される多目的講堂の正面を飾る光景を、現実のものとして想像することができるとにりました。

モニュメントに次ぐ防大同窓会記念事業の重点である顕彰室の整備は、今後その規模等細部にわたる防大当局との調整を必要としていますが、同窓生の殉職者顕彰のシンボルとなる像を設置することが望ましいとの認識を得ております。

防大五十年史については、防大当局において検討の結果、オフィシャル・ストーリーとして作成し、同窓会関係の記事は含まないことになりました。なお、五十年小史及び記念写真集等の同窓会による作成については、今後検討を続ける予定です。

平成十四年の記念行事については、その項目の選定を進めています。記念ハートイは同窓会が計画実施する事業と位置づけ今後同窓会本部で検討することになり、記念事業委員会の担当事業から分離することになりました。

4 記念事業の今後の進め方

前記のとおり、記念事業の内容についてはある程度具体的な姿が描ける段階に至りました。従って、今後記念事業委員会が担当する事業については、次の構想により進めたいと考えております。

(一) 記念事業の中核はモニュメントとし、ステンドグラスの設置構想の実現を図る（経費約三千万円）さらに今後の検討に基づき、中央広場へ彫刻像の設置を推進する（経費約二千万円）

〔モニュメント総額 約五千万円〕

(二) 殉職同窓生の顕彰室の整備を第二の重点とし、その中にシンボル像を設置するとともに、刻銘用石板等を寄贈する。（経費約一千五百万円）また、資料館整備について卒業生コーナーの設置及び資料収集等に対し協力を行う。五十年小史及び記念写真集等の

作成については、今後の検討結果を得て最終的に決定する。

〔顕彰室、資料館等 総額約二千五百万円〕

(三) 平成十四年の記念行事として、記念講演会等の実施及び記念マーチの作成・寄贈等について検討を行い、その結果を得て最終的に決定する。

〔記念行事総額 約一千五百万円〕

(四) 記念事業の拠金者に対して小規模な記念品を贈呈するとともにその名簿を防大構内に保存する。

〔総額 約二千万円〕

今回の記念事業のための募金は、当初、目標額二億円、その概略の内訳としてモニュメント一億円、資料館・五十年史及び記念行事・記録 各五千万円と見積もりました。しかし前記のとおり、モニュメントについてはステンドグラスが三千万円以内で制作できる見通しが得られ、また記念ハートイは同窓会本部の計画となった結果、目標額の縮小が可能になりました。

一方、現在までの募金実績の範囲では、当初の構想どおりの事業を実施することは困難であります。母校創立五十周年という記念すべき時期の同窓会の事業には、少なくとも半数以上の同窓生の参加を得て、後世に遺すにふさわしい事業を実現させることが重要であり、またそれを通じて防大同窓生の存在と行動力を再認識することに大きな意義があるものと考えます。

従って、同窓会としての募金活動は、前記事業の実施が可能な金額である一億二千万円を目標とし、平成十三年三月末を期限として、引き続き会員の皆様の御協力を仰ぐことにはたいと存じます。諸般の状況は厳しい折ではあります。この事業の趣旨と意義について御理解を賜り、最後の段階における御支援をお願いする次第であります。

防大五十周年記念事業募金状況

(平成10年11月6日 現在)

期	対象者数	拠 出 者 数				合計	拠 金 率	拠 金 額 (×1000円)
		陸	海	空				
1	299	128	44	31	203	67.9	4,750	
2	308	137	43	41	221	71.8	4,710	
3	447	126	47	79	252	56.4	5,580	
4	419	128	46	69	243	58.0	5,030	
5	491	111	45	65	221	45.0	4,600	
6	427	97	54	69	220	51.5	4,630	
7	419	105	51	48	204	48.7	4,335	
8	414	85	41	46	172	41.5	3,200	
9	424	86	53	50	189	44.6	4,210	
10	442	97	43	54	194	43.9	2,840	
11	462	86	50	40	176	38.1	2,390	
12	417	89	42	52	183	43.9	2,330	
13	403	72	33	56	161	40.0	1,820	
14	461	79	58	55	192	41.6	2,052	
15	401	106	36	42	184	45.9	1,885	
16	402	87	28	54	169	42.0	1,850	
17	455	82	46	46	174	38.2	1,850	
18	399	54	47	35	136	34.1	1,470	
19	413	86	29	43	158	38.3	1,660	
20	356	54	32	30	116	32.6	1,205	
21	465	68	43	28	139	29.9	1,490	
22	431	44	35	28	107	24.8	1,160	
23	378	51	30	28	109	28.8	1,225	
24	417	44	42	26	112	26.9	1,160	
25	374	56	39	23	118	31.6	1,230	
26	469	57	57	32	146	31.1	1,525	
27	364	37	57	14	108	29.7	1,120	
28	403	47	41	21	109	27.0	1,240	
29	414	43	32	26	101	24.4	1,050	
30	369	25	28	15	68	18.4	730	
31	396	38	24	23	85	21.5	880	
32	334	33	16	22	71	21.3	760	
33	378	40	20	18	78	20.6	800	
34	354	41	14	28	83	23.4	940	
35	439	32	20	9	61	13.9	658	
36	340	19	15	13	47	13.8	530	
37	366	17	12	16	45	12.3	490	
38	425	20	11	10	41	9.6	450	
39	338	24	14	12	50	14.8	520	
40	376	10	9	21	40	10.6	430	
4	403	86	38	3	127	31.5	1,075	
合計	16,492	2,727	1,465	1,421	5,613	34.0	81,860	

備 考

1. 8,267万円 (H10.11.6現在)

(1) 拠金総額 8,240万円 (真駒内同窓会団体 40万円)
(未確認拠金者等 14万円)

(2) 利息 27万円

2. 拠金される方は次の口座を御利用下さい

郵便局振替口座 口座番号 00150-6-352140

加入者名 防大五十周年記念事業委員会

* 事務能力上御案内の遅れました42期生の皆様よろしくお願ひ
します。(1口 1万円基準)

* 拠金は分割でも結構です。



HITACHI

人間らしさをキーワードに、
いま私たちの生活や社会には、
本当の豊かさやゆとりが求められています。
日立は、どこまでも人にやさしい先端技術を通じて、
そんな暮らしの夢をひとつひとつ花開かせ、
豊かな実りをお届けします。

◎ 株式会社 日立製作所 公共営業本部 〒101-8010 東京都千代田区神田駿河台四丁目6番地 電話(03)3258-1111(大代)



を張るには至らなかった。同グループは、常時西側グループを牽制しブレッシヤーを懸ける決議案を提出していたが、我が国はいつもコンセンサスには加わらない、という態度に終始していたが、これには非常につらいものがあった。ある時、ある代表団からは「コンセンサスとは必ずしも全会一致を意味しないから、日本1国が反対してもグループのコンセンサスは成立する」旨の暴言があった。勿論成立には至らなかったが、この時初めて「consensus」と「unanimity」なる英語の違いを知った次第で、正しく、海千山千の外交官の世界だなあ、と感じた次第である。

一方、痛快で面白かったのは、欧州先進国と共同戦線を張って、A、R、C3大国の横暴に抵抗した時である。この3大国は、時々尻尾屈をこねて強引に条約の趣旨を曲げようとする意向が見られたが、このようなときは、やはり我が国は先進超大国のA国よりは、どちらかという利害の共有点が多い欧州先進国と共同戦線を張って、大国をやり込めたことがあり、日頃の横暴に溜飲を下げたことがあった。

こと程さように、このような国連システムを適用した国際会議で、各国は自国の意志を通そうとして離合集散を繰り返すわけである。我が国が組織活動総予算の13%近くを負担しているが、そのことを尊重するのは極少数派の先進国のみであり、筆者の借家の1ヶ月分家賃と同額の分損金（1年間で）しか

払っていない国々の理不尽な横車であつても、数の論理で行けば「無理が通れば道理引つ込む」といった事態になるのである。この点に筆者は国連が代表する協議システムの限界を感じた次第である。「国連は肥大化し、重要な決議は成せず、衆愚政治の場になりつつある」、「国連は純粋に利益追求の場である」というのが率直な感想である。

防衛交流

現在、筆者は在京の各国武官25ヶ国との連絡調整にあたる渉外業務に携わっている。一度オランダでの防衛駐在官の立場になったわけである。そんな立場に立つてみて最近見えなかつたものが見えてきた。「○国の武官は誠実であり、よく働いている。」「△国の武官は口だけだ。」「×国の武官は仕事をしない。」「等々それぞれの武官を評価基準として不思議なくらいそれぞれの派遣国の印象が形成されていく。これと同じ様な評価が自分の外国勤務中にもあつたと思うと背筋がゾッとするものである。これを裏返せば防衛駐在官の重要性、特に、情報収集という本業にも増して一国の軍隊の代表としてまさしく自衛隊の顔であり、任国の関係者は防衛駐在官を通じてその派遣先、派遣国を評価しているであろうことは想像に難くない。

また、もう一つの重要な仕事に陸幕長の海外出張の調整、及び外国陸軍参謀長の訪日招待業務があるが、これは最も気を遣い、神経をすり減らす業務でもある。特に最近では、数年前には想像ができない程、交流対象国の質、量とも拡大しており、過去の経験だけに頼るわけにはいかないと多々ある。中でも招待業務は部隊訪問から文化研修、招宴、夫人プログラムまで、時間どおり進行するか、相手の希望に叶っているか、天気はどうか等々常時同行するものにとっては気が気でないものがある。勿論、一国の軍を代表してこれらる人達だから我々の準備したプログラムを文句も言わずに受け入れてくれるが、実際のところ

ころは満足しているのかどうか最後まで把握できず、恐らくその結果は、訪日のお返しで陸幕長が相手国を訪問したときに判るのであろう。幸か不幸か未だそのような状況にはいっておらず、特別の苦情も聞かなくてこないことから、なんとか不合格ではないらしい。

ただ全体の業務としてまだまだ我が国、特に陸上自衛隊の実施する防衛交流は端緒にいたばかりであり、実質的な交流はこれから、という感がする。冷戦時代は日米同盟関係を基軸とした交流であり、アメリカ以外の国との交流は儀礼的なものに終始していたものと思う。それが冷戦の枠組み崩壊後、また、我が国が国際貢献としてPKO活動や、軍備管理、軍縮の世界にコミットしてからは、交流対象国が増えたことに加え、色々な国との利害、共通点を模索する必要があるようになった。同様に各国にしても新たな国際秩序、協力関係を模索している状況にある。これだけ自衛隊が海外との接点を持つようになった現在では、近い国だけに関心を持つだけでは十分とは言えず、遠い国であっても利害を共有できそうな国とは積極的に交流を図るべきであろう。そのような交流を通じて21世紀初頭には徐々に旗幟が鮮明になっていくだろう。防衛交流は平時に軍隊が実施できる各種活動の内少なからぬ役割を担っているものと実感している。

結言

筆者自信、国際人でも、国際感覚豊かな人間でも無い。逆に極めて古いタイプの日本人であると思つている。海外の経験はあるが、外国人が特別好きなのではない。ただ外国及び外国人から見た日本とはどういふものなのか、が少し判つてきたのではないかと、という自負心はある。また、国際社会の枠組み、国連というものが必ずしも最高の存在では無いという実感。今までは、多くの利害を共有できると思つていた先進国が、彼らは彼らなりこの明確な利益に基づいて行動しているという

MITSUBISHI
SOCIO-TECHの三菱電機



41万画素の高画質が用途を広げるコンパクト赤外線カメラ

IR-M700

- 世界最高水準41万画素(801×512)の高画質
- 雑音等価温度差 0.08℃の高感度
- 5kg・4.2ℓの軽量・コンパクト
- 45Wの低消費電力
- マルチ電子ズーム(2.4、8倍)、電子スクロール機能、画面フリーズ機能付

用途に合わせてお選びください。
IR-M300:6万6千(256×256)画素
雑音等価温度差0.2℃

NEW 非冷却タイプ
IR-U300M1:8万(320×240)画素
雑音等価温度差0.2℃

IR-M700/IR-M300/IR-U300M1

三菱サーマルイメージャ

●お問い合わせは三菱電機株式会社 本社 監視・検測システム営業課 〒100-8310 東京都千代田区丸の内2-2-3 電話(03)3218-3370

三菱電機株式会社

ことを実体験で知ったこと。また、国益というものが、現場で明確な指針を与えてくれる場合はかりでないこと。そんな時、自分の行動の指針を示してくれるのは、愛国心、日本人であることの誇り、といった心の部分によるところが大きい、ということであると思う。これらを肌身で知ることができたというのが筆者の財産であり、自信を持って読者諸兄諸姉に訴えられる事である。

今後の防衛大学校が21世紀に向けて、さらに有為な人材を自衛隊に、ひいては国際社会に送り出されんことをお祈りする次第である。この拙文に対する諸兄諸姉の御意見、御叱正を期待するものである。

ブルーインパルスIN 長野オリンピックピック

22期 (空) 阿部 英彦



1998年2月7日13時3分15秒。この時間を私は生涯忘れることは決してないと思います。

1964年10月10日、東京オリンピック開会式で東京国立競技場上空に鮮やかな五輪マークをF-86Fブルーインパルスが描いてから34年、三代目となるT-4ブルーインパルスが長野オリンピックに場を替えて開会式という大舞台に挑みました。

この長野オリンピック開会式という華やかな大舞台は、ブルーインパルスが飛行する上で最悪といつてよいぐらい悪条件が揃っていました。それは、盆地特有の予想できない乱気流や低く垂れ込める雪雲と吹雪等の視程障害現象、開会式で飛ばされる無数の鳩型の風船や会場周辺で飛行する警備や報道のヘリの

存在、冬期の低温におけるスモークの発色の問題、そしてブルーの飛行を大きく制限する長野県側からの曲技飛行禁止の要求等でした。さらに展示飛行をする上で、展示時刻が最大の難問でした。通常、我々空自のパイロットは示された時刻に1秒の誤差もなく飛行する訓練をしており確実に実施することが出来ます。そのため綿密な航法計画を立てるわけですが、今回は直前まで時刻が示されないだけでなく、式典の状況によってプラスマイナス20分の範囲の中で、かつ会場上空を第九の演奏直後に来て欲しいというものでした。航空機が空中で止まって待機することが可能ならば何ら問題がないのですが、常に約700キロというスピードで飛行し、使用できる燃料も限られていることからこの要求を受け入れることの難しさがお解りいただけると思います。これらの問題をブルーインパルスの隊員はもちろん、空自の隊員が一丸となってひとつひとつ解決し、そして長野オリンピック開会式でのレベルオーバーブナー(水平空中開花)を披露することができたのです。

誰もが一度は鳥のように自由に大空を飛んでみたいと思ったことがあると思います。私も子供の頃そう思った一人であり、幸運にも空自のパイロットとしての道を歩み夢がかなっただけでなく、ブルーインパルスの隊長として勤務することが出来ました。ここで少しブルーインパルスについて紹介したいと思います。現在T-4というジェット練習機で、年間二十数回全国各地で展示飛行をしています。大空をキャンパスに五色のスモークで華やかに、機敏に、雄大に飛行し、多くの人々特に子供達に大空に対する夢と希望と感動を与えようと頑張っています。この華麗な空中でのパフォーマンス、そして大空を自由に舞う見た目の華やかさのその裏で、パイロットは常にプラス6Gからマイナス2Gという普通の人には想像もできないような重力と闘い、地面が間近に迫る恐怖を克服し、他機との間隔がわずかな編隊をチームワークと集中力で維

持するという苛酷なフライトを汗だくでやっているのです。加えて展示飛行のほとんどが土日祝日に実施されるため、家族サービスはもちろん病気の時でさえ面倒を見てやれないといった任務とはいえず、家族に対してかなりの犠牲と我慢を強いています。ブルーのメンバーは航空祭等で確かにスターかも知れませんが、家に帰れば普通の夫であり父親であるわけで、この夫そして父親としての家族に対してすまないといったつらい心情はご理解していただけるのではないかと思います。とはいえ、子供達に夢と感動を与え続けるため今日も明るく爽やかに頑張っているのです。

話を長野オリンピック開会式に戻したいと思います。当日、私は開会式会場で地上指揮をしていました。当初あった多くの問題も解決し、残るは一番の問題である展示時刻だけでした。前日の総合予行どおりであればその時刻は12時53分15秒。そして開会式はスタートしました。頭の中はいつ最終決心をし、編隊長に通報するかだけで、式典を見る余裕な

どまるでありませんでした。案の定予行と異なり各イベントに遅れが生じどんどん時刻がずれ込む状況でした。そしてブルーインパルスの展示飛行直前のイベント第九の演奏合奏が始まりました。ブルーの編隊は上田市上空で待機中の連絡があり、最終的に決心した時間13時3分15秒、これを通報した以降もう変更はきかず神に祈るだけでした。第九が終り拍手が鳴り響く中、聖火台の上空にオリンピックカラーの五色のスモーク、そして等間隔に散開、観客全員が驚いたようにブルーインパルスの軌跡を見上げていました。少し間隔をおいてウオーという歓声と割れるような拍手、ブルーインパルスは一秒の狂いもなく最高のフライトで開会式を締めくくりました。こうしてT-4ブルーインパルスの長野オリンピックは終わりました。もしまだ一度もブルーのフライトを見ていない方は、是非近くの航空祭に足を運んで下さい。きっと何かを与えてくれると信じています。

Kawasaki

世界と夢の先端に。

川崎重工

航空宇宙事業本部
〒103-8155 東京都港区新橋2-1-1 川崎重工航空宇宙センタービル
TEL:03-3435-2111 FAX:03-3435-296



2期生会

(個人的懐旧談)
◆会長 浅野 豊

昭和25年(1950)6月、朝鮮戦争が勃発した。日本はこれにより、経済的には朝鮮特需という名の戦後復興の足掛かりをつかみ、軍事的にはマッカーサー元帥の「日本警察力増強に関する書簡」によって、警察予備隊(7万5千人)という再軍備の足掛かりをつかんだ。

そして早くもこの時期に、時の総理大臣吉田茂は、幹部養成学校を設立するよう指示したと言われる。「士官学校設立急ぐ、高校生業者を採用、予備隊幹部を養成(昭和26年1月12日付け、読売新聞)」の文字が紙上に見られる。

保安大学は、昭和27年(1952)8月、「保安庁法」に基づき、警察予備隊が保安隊に改編されたのと同じに、保安庁の付属機関として発足した。そして開校準備作業が東京越中島の保安庁(現東京商船大学)で開始された。「防衛大学創立50周年記念事業」が平成14年(2002)に実施される所以である。

国会では、「再軍備はいたしません」と言い続け、「戦力なき軍隊」という明言を編みだした吉田首相ではあるが、昭和29年6月、久里浜の保安大学を突然視察した。横須賀の米海軍司令部を訪問しての帰路に立ち寄つ

たと言われる。

飯校舎の粗末な学生食堂で、1期生・2期生全員と昼食を共にされたが、榎智雄初代校長と並んで会食される御二人の眼下で、ただ黙々と一膳飯を食べていた1年坊主の私には、何故か印象深い思い出として心に残っている。結局、吉田首相は一口も箸をつけずに、榎校長と談笑しているだけであったが、国会では再軍備はしないと断言していても、本心はいずれ国軍にすると考え、保安大学を将来の国軍の士官学校にすると考えていたことに疑いはない。

防衛庁が「省」にも昇格せず、未だ防衛大学校を継承している自衛隊の現実を、今なら何と言われようか。是非、聞いてみたいと思っている。



2期生入校式(昭29. 4久里浜) 入校: 408名 卒業: 359名

4期生会

◆会長 林崎 千明

4期生会友諸兄にはお達者にてお過ごしのことと存じます。会友の一部には、防大において後輩の教育・指導に当たっておられる方もおりますが、杉山藩君を最後にすべての者が国防の第一線から退き、夫々に第二、第三の道を歩むことになりました。いよいよ期生会として、より団結を強め、今後の豊かな人生の時を刻むべきかと思えます。期生会活動をより活発にして、とは思いますが、組織を離れての夫々の独立の道、連携をとるのも容易ではありません。しかし小原台の4年間を含む長い道程において培われた友情、時々の場を通じた交流は可能であります。近々期生会誌「新草」発刊の予定であり、御意見等あればそれぞれの役員にお寄せください。なお、平成10年度4期生会総会、懇親会を次のとおり予定しております。

期日 平成11年3月6日(土) 17:00
場所 グランドヒル市ヶ谷
会費 7,000円(準会員は3,000円)

7期生会

◆会長 伊藤 惇

従来は明治記念館で行なっておりましたが、今回は自衛隊の風気も吸い得る市ヶ谷としました。多数の参加を願っております。押し付けられた期生会の各役員及び同窓会の各役員は会友各位のためにと一生懸命です。応援を期待しております。

志を胸に、小原台に集いて39年になる。海幕長の山本君を除いて、この春をもって全員が現役(ユニフォームとしては)を終え、7期生としてひとつの区切りを迎える時期となった。当然の事ながら、同期生も全国に散り、夫々新たな思いで、人生を楽しんでいく。首都圏(東京・神奈川・埼玉・千葉)に在住す

る者6割、4割が地方という感じ。

過般、7月7日に、小西同窓会会長を招いて、約100名の7期生が明治記念館に集い、関の声を上げた。

今年は、防衛族一丸となって、参議院議員に送り込むべく推挙した石田君への諸活動にあたり、その中核として終始同期生が任じたことを、当り前の事とは言え特筆すべきと思う。御案内の結果で誠に口惜しい限りだが、中央、地方を問わず、全くの奉仕活動を黙々と組織し得たのは、同期としての求心力以外の何者でもない、秘かに思っている。同時に、先輩・後輩の同窓生諸兄にも、多大なる御尽力を賜った事に改めて感謝したい。

そろそろ還暦に差しかかる年代。身体のうちうちに衰えを感じるとは言いながらも、まだまだ不自由はない。社会に対しても、家族に対しても、一応の責任を果たした今、これからは、より自由により幅広く、貢献し世に存在したいと念じている7期生の昨今である。

8期生会

◆会長 平岡 裕治

8月に行われました8期生会総会におきまして、会長に選出されました平岡です。我が8期生も、現役は陸が藤縄君、空が私一人と合計2名を残すのみとなりました。今回の会長選出は、現役としての総仕上げに、同期生のために力を尽くせという神の声だと思ひ頑張りますので宜しくお願いします。

さて、「内憂外患」とはまさに防衛庁・自衛隊の現状を表すのに適当な言葉です。外には北朝鮮のミサイル発射、内には調本事業と、自衛隊創設半世紀を目前にして正念場を迎えていると言えらるでしょう。

一方、我々は諸先輩をはじめ隊員一丸となつての努力により、この半世紀において本来任務の国防はもとより、PKO、災害派遣等を通じて、国民の理解、支持を得てきました。

「税金泥棒」と呼ばれた時代から、「自衛隊さん御苦労様」と呼ばれる時代に、長い年月を経てようやくなりつつあります。この努力が水泡に帰すか否か、今が分岐点とも言えます。

今、ここで思い出すのは我々八期生が草案を作成し、9期生、10期生が起草した防衛大学校の「学生綱領」です。「廉恥・真勇・礼節」の三つのモットーは、今こそ我々が初心に帰り思い起こさなければならぬ道義であろうと思います。誠実を基調にしてこのモットーを実践すれば、自ずと道は開けるものと確信しています。

我々8期生の現役生活もあと僅か。後輩諸子に託す言葉としてこの「学生綱領」の精神を送りたいと思います。

最後に先の期生会の状況についてお知らせします。懇親会では30数年前にタイムスリッブし、楽しいひとときを過ごしました。

日時 平成10年8月21日
場所 グランドヒル市ヶ谷
参集者 118名(うち夫人16名)
次第 総会及び懇親会
新役員 会長 平岡裕治(空)

企画 工藤雄司(空)
会計 山田正二(空)
陸担当 松浦紘之(陸)
海担当 大西秀男(海)
空担当 西野重信(空)

なお、9年12月に山口弘治君(海)が逝去されました。謹んで御冥福をお祈りいたします。



10期生会

◆50周年記念事業委員
(陸上) 会長 石飛 勇次

同期生諸兄には、恙無くお過ごしのことと存じます。初の零期生(?)として若さを誇って来た我々10期生も、大半が生後2万日を過ぎ、人生の中間目標であり、折返し点である定年が現実のものとなるとする昨今です。

御存知の通り、防大は、4年後の平成14年に創立50周年を迎えることになり、目下その記念事業の為、募金活動と事業内容の検討がなされております。

残念ながら募金活動は、決して順調ではなく、我々10期生の応募率も8/31現在で42.5%(188名)と他の期に比しやや低調です。

一方、記念事業の目玉として新設の記念講堂の一角に、同期の平山助成君の縁で、実兄平山郁夫氏の原画に基づくステンドグラス設置が企画されております。そういう意味でも、また零期生のメンツにかけてもより一層の募金活動をよろしくお願い致します。

小原台上で共に汗し涙した青春時代と同期生が懐かしく、絆の強化の必要性を痛感する秋になりました。

我々のクラスは、U出身者との連携と陸、海、空の独自性を重視したため、各地区毎に自発的な交流の機会はあるものの、正式な統一された期生会は、設立されていないのが現状です。遅ればせながら、後半生の寂しさを楽しく変えるべく、是非とも具体化を促進したく、諸兄の御協力をお願い致します。

14期生会

◆会長 齊藤 隆

今回は14期生の海上要員の近況について、本年3月をもって全員が50才代に入りました。大部分の者は年相応に体力、頭の色等変化してきており定年も現実のものとして視野に入ってきております。そういう中で、7月

に行われた海上自衛隊とロシア太平洋艦隊との共同訓練に海自側指揮官として参加した関泰雄君をはじめとして、総員が海上自衛隊生活を通じてそれぞれが培ってきたものをもって各自の持ち場で頑張っております。また、毎年6月には一般大出身者も含めた期生会を兼ね、昭和46年度遠洋訓練習航海(14期生が実習幹部として参加)参加者の集いを催しております。本年も6月26日に第27回目の集いを開き、同期生だけでなく当時の司令官、乗組幹部、同行者等諸先輩方との旧交を温めました。

追伸・防大50周年記念日への募金宜しくお願致します。(10年3月31日現在、陸、海、空142名が募金されています。)

16期生会

(北海道分会) ◆吉良 節

現在、北海道の各部隊等には陸29、海・空各1合計31名の16期生が勤務しています。職務も防衛副長を始めとして各職種の部隊長、幕僚、地連部長等と幅広く、「ツー・カー」の関係で、お互いに切磋琢磨しつつ(?)任務を遂行しています。

31名中9名は道内に自宅を構えており、残余のほとんどは単身赴任です。

北海道は広いので、全員が一堂に会することはできませんが、札幌・千歳周辺地区の同期生を中心として、若干の業務上の調整とストレスの解消も兼ね、異動時の送別会・歓迎会、不定期のゴルフコンペ及び随時の飲み会を実施し旧交を温めています。また、多方面隊から同期生が札幌に出張してきたときには近傍の同期生を非常呼集し、宴会やゴルフにより盛大に歓迎しています。どうぞ札幌出張の際にはご一報下さい。

なお、防大助教(戦史)の田中恒夫君が、かや書房から「朝鮮戦争・多富洞の戦い」という本を出版しました。韓国陸軍第1師団の戦闘を通じ、国土防衛作戦の実態や第一線部

隊の奮闘ぶりを克明に研究・観察した良書です、ぜひご一読下さい。

22期生会

◆副会長 早野 禎祐



「新生22期生会、盛大に20周年、遠く海外からも参加」

昭和49年入校、53年卒業の第22期生会が休眠状態から活動を再開いたしましたので報告申し上げます。

第22期生は平成10年3月をもって、防大卒業20周年となりました。この節目に、長らく組織としては休眠状態にありました期生会を組織も新たに活性化させることを計画し、平成10年3月1日に東京信濃町の明治記念館におきまして、卒業20周年記念行事を開催いたしました。記念行事にはご多忙中にもかかわらず、小西同窓会長、当時の左近充元訓練部長、山田元学生課長のご臨席を賜り、22期生100名以上が参集して約2時間半にわたり期生会の再出発と懇親を深めることができました。

記念行事は期生会会則及び会長等役員承認を行う総会でスタートいたしました。新会則は東京地区の会員有志による準備委員会によって案文の作成、全国の会員に対する意見聴取と事前承認アンケートが実施され、退職時まで見据えた会則として総会参加者の同意を得て採択されました。同時に新期生会会長に陸自の宮下寿広君(現陸幹校戦略教官室勤務)を選出するとともに陸海空から副会長及

び総務幹事等役員が承認され、新体制として活動を開始いたしました。

ご来賓をお迎えしての懇親会においては、小西同窓会長から「防大同窓会の現状と22期生に対する期待」のお言葉を賜りました。左近充元訓練部長及び山田元学生課長からは学生当時を思い出すような「開校祭におけるパラシュート降下の冷や汗話」や「学生隊解散」の当時そのままの号令までいただき、気分は一挙に学生時代へと遡りました。さらに、ご都合でご参加頂けませんでした猪木元学校長からは心温まる祝電を、また、海外勤務者からも是非帰国後にも総会・懇親会を開くようにという電報までいただきました。

私ども22期生は文化系入校の第一期でもあり、10数名の防衛駐在官を出し、読売新聞で親子三代のバラシュート降下と報道された高木雅弘君、長野オリンピックのブルーインパルス飛行を扱った日本テレビのドキュメンタリー番組で一躍有名になったブルー飛行隊長（当時）の阿部英彦君等、何かと話題を提供している期でもあります。懇親会では久々の出会いに現役もOBもあちこちで近況を語り合い、瞬く間に時間が過ぎてゆきました。

この総会・懇親会のために、商社勤務者が遠くロスアンジェルスから、小学校の教師が福岡から、県警の警察官が岩手からそれぞれ駆けつけ、現役では鹿児島部隊からも参加するなど、遠方からの出席を得て、新生22期生会のスタートを飾ることができました。最後に、小西同窓会長を輪の中に取り込み、全員で道遠歌を合唱、名残を惜しみながら次回の再会を約束して散会いたしました。

26期生会 ◆会長 一屋代 律夫

26期生のみなさんお元気ですか、私たちが防大を卒業してから早くも16年の年月が経ち

ました。若い若いと思いつながら気がついたら私たちが防大生の頃の大隊指導官と同年代となつています。防大の入校生が現在46期生、あと数年後には同期生の子弟が防大二世として入校することも夢ではないと思います。私たちは、我が国の防衛のみならず将来我々に続く後輩のために自衛隊を革新すべく多くの同期生が主要なポストにつき日夜奮闘努力しています。関東近郊では、大隊会・班会と年に数回同期生が集まっていますが、集まる度に思い出話で夜遅くまで語りあっています。再来年（2000年）はオリンピックの年であり全国26期生会の年です。多くの同期生が参加し、近況また将来について大いに語りましょう。

防大も2002年に50周年となります。昨年同期生全員にお願いしたように後輩に我々先輩として軌跡を残すためのモニメントを同窓会として寄贈することになりました。多くの同期生が本趣旨に賛同していただくことをお願いいたします。

28期生会 ◆会長 一田浦 正人

28期生の近況につきまして、前回の期生会より詳しく報告してありますので、今回は少々趣向を変えて同期生座談会での話題を紹介いたします。9月都内某所に28期生数名が集い、いつしか「防大の部屋編成」の話題となりました。ご案内の通り、防大の部屋編成は平成9年に同期の2人部屋から各学年混在の4人部屋へ移行し、10年度以降各学年1名からなる縦割りの4人部屋（但し、前期は4年・3年・2年・2年と4年・3年・1年・1年の2タイプ）に変更されました。我々28

期生は、1学年時縦割りの4人部屋を、2学年以降同期の4人部屋を経験したため、両方の制度の利点・欠点ともに知り尽くしている数少ない期です。結論から述べれば、今回の変更はまさに改善であると全員の意見が一致

しました。同期による同部屋の制度は馴れ合いムードによる切磋琢磨の不足が一番の問題点であったように思います。28期のように同期が4人であればある程度困止めがきいたように（そうでない部屋もありましたが）思いますが、同期が2人であれば切磋琢磨はかなり難しかったのではないのでしょうか。63年に同期の2人部屋編成に移行した時に、「防大の学生会が単なる学生寮になってしまった」と嘆いていた同期の言葉を思い出します。縦割りの4人部屋編成は、リーダーシップ、協調性、切磋琢磨といった団体生活を通じて修得すべき資質の体得ができたと思います。ここで懸念されるのがいわゆる「上級生による下級生の私物化」ですが、相手の人格を尊重する事が人間関係を構築するうえでの大前提であることを認識させさえすれば、そう大きな問題にならないと思います。第一、縦割りの4人部屋編成にはそれ以上のメリットがあるのです。座談会に出席した者の中には、約20年経過した今でも当時の上級生と部屋会を開いている者も多く、良好な人間関係構築の重要性がうかがえました。防大の学生会は自己を磨く道場と認識し、縦割りの4人部屋編成のもと安心して修行に励んでほしい。これが、座談会出席者の総意でした。28期生の皆さんは、この便りを読まれた先輩等から

「〇〇君にリーダーシップや協調性が欠落している理由がわかった」といわれることがないようにそれぞれの部署で精進していただきたいと思えます。

30期生会 ◆会長 一堀切 光彦

1 30期同期生諸君、ご無沙汰しております。皆さんお元気ですか？

同期諸君は、陸・海・空又は社会と場所は違えども今や働き盛りで多忙を極める毎日をご過ごしていることと思います。陸自の話をして恐縮ですが、先日仕事で陸幕を訪れた

際、陸幕勤務をしている同期から名簿を見せてもらい同期の検町勤務者がBのみで36名（B・U・I併せて50名）もいることを知り驚きました。陸幕内を歩くとあちこちの部屋に同期がいて、机上のパソコンと向かい合って忙しく仕事をやる真面目なN君、電話であたふたと調整をするT君、ストレス太りかぶくぶく肥えてしまったT君、学生時代に悪魔のように下級生をいじめていたF君はなぜか人事を扱う仕事に就いていて何か企んでいるようだし、学生の頃よく物をなくしていたN君がなぜか装備部で物の管理をしていたり、相変わらずO君は鼻くそをほじっていましたし、陸幕という激務の中、忙しい中にも学生時代の個性が散見され、懐かしさ、かつ頼もしく思いました。

我々も防大を卒業してよりは12年、たまに会う同期の顔にお互い「おじさんになつたな」と痛感させられる今日この頃ですが、気持ちだけはいつでも小原台の頃のように若々しくかつ澆潮としていたいものです。ね。

2 期生会名簿整理上のお願い（総括が角君から山口芳正君に変わりました）名簿は年賀状に間に合うように毎年11月末に発送の予定です。同期諸君は、期生会名簿整理上、次の点にご協力下さい。
*（全員必ず）同期生各位は、住所・連絡先の移動があった際、必ず自分の所属していた教務班の名簿係に毎年11月初旬までに住所変更の有無を二報下さい。
教務班の係りの連絡先が不明の場合は、直接山口まで二報下されれば結構です。

*（各班の名簿係）各班の名簿担当者には各班分をとりまとめ、毎年11月15日までに総括（山口まで）一報下さい。第1希望・Fax、第2希望・郵送
連絡先・山口芳正 〒179-0081

東京都練馬区北町4-1-1 第1普通
2中隊長

Fax・内線8-311-548、

外線03-3933-1161(内548)

電話・内線8-311-522、外線0

3-3933-1161(内522)

*尚、練馬・朝霞地区の同期の方々におか
れましては、11月中旬以降名簿郵送のた
めの作業のお手伝いをよろしくお願いい
たします

34期生会

◆会長 佐藤 信知

34期生の皆様、全国各地でご活躍中のこと
と思います

さて、我々34期も、陸上は指揮幕僚課程、
海上は幹部中級課程、航空は幹部普通課程等
において幹部候補生学校卒業以来、久しぶり
に同期生が集う機会を得ております。特に日
黒の幹部学校においては、新課程の入校時や、
受験や研修等のために同期生が来校する際
は、陸海空の壁を越えて同期生会が催されて
いると聞いております

かくいう私も、幹部普通課程を8月に卒業
し、母校である防衛大学校に指導教官として
戻って参りました。卒業10周年を2年後に控
えたこの時期に、防大に戻ってきたことにも、
いささかの運命を感じつつ、後輩指導、校友
会の顧問と共に、期生会にも力を注いで行く
所存であります。とは言うものの期生会は、
私一人の力では運営はできません。10周年記
念行事を含め、プロジェクト・チームを編成
し、運営していこうと思っておりますので、ご
協力をお願いします

なお、私は34中隊で指導教官をしておりま
すので、気軽に連絡を下さい

地区だより

北海道地域支部

支部長 樺山 貢

北海道地域支部は、昨年9月に地域支部と
しては、全国に先駆けて発足した

◎当地域支部の特色としては、会員一、〇〇

◎名の内OBは一〇〇名、現役が九〇〇名

と圧倒的に現役が多い。また支部も31個支
部で、道央圏(札幌・千歳・恵庭等)を主

体に、広域に分散している。

◎平成10年度は、各地区支部の基盤整備・充

実に努め、地域支部としての事業は実施し
ていない。

◎平成11年度の事業に関しては、7月に「理

事会」を実施し、11月には「代議員会」を

開き、「地域支部会員としての会費徴収」

「防大創立50周年記念事業への募金への協

力」また「防大人校予定者への激励」等の

「実のある事業」を計画する予定である。

西部地域支部

事務局長 道下 富士雄

平成8年防大同窓会発足に伴い、平成9年
10月3日防大同窓会西部地域支部(九州防大
同窓会と通称)(会長・一期織田稔夫)とし
て退職会員約600名、現職会員約1、100名
の勢力で活動を開始しております

会の運営において、ややもすると事務局の

一方的な考えにおちいらないように各期から

1名の代表を幹事として事務局に配置し、ま

た2ヶ月に一度夕食会を幹事会として開き会

の活動の審議、防大や同窓生等の情報交換及
び親睦を図っており、会の運営になくはな

らない存在になっております。

また、毎年開く総会後の懇親会の計画・実

施の担当は、各期持ち回りとなっております

が、ちなみに来年度は退職会員5期と20年後

輩の現職25期の担当するようにしています

これにより退職会員と現職会員との連携の強

化を図るとともに同窓会への参加意識が高ま

るものと期待しております

さて、会の運営において名簿の作成は欠か

せない事業ですが、毎年追加・訂正を行いま

年は、現職会員の名簿は全員に送付すること

とし(5年に一度)、現職の名簿は同窓会事

務局・駐屯地・基地及び主要な部隊等に配布

しているところです

また、九州各県の同窓会設立の動きがあり、

熊本・大分・宮崎の各県ですすでに同窓会を

設立し活動を開始しておりますことも併せて

報告し、九州防大同窓会の近況報告といたし

たいと存じます

広島地区支部

事務局 上手 義孝

防衛大学広島地域同窓会は、防衛大学の

地域同窓会としては嚆矢となる同窓会を平成

9年7月5日設立し、丸1年余りになります

防衛大学校広島地域同窓会は、防衛大学校

の下部組織として活動し、母校の発展及び社

会活動に寄与することであり、広島地域同窓

会の結果が一つのパワーとなり地域社会に貢

献すると共に同窓生の相互扶助を強力に推進

すること等を目標にしており、会員は、会長

松浦有郎氏(防大1期 陸上)他広島・山

口・岡山県等で活躍している130名余りのOB

と部隊等に勤務している現役自衛官で構成し

ております

年間の活動は、定期総会の他に春・秋季行

事としてそれぞれ登山、テニス、ゴルフを家

族を含めて実施するよう計画しております

平成9年度定期

総会では、総会に

さきがけて松本

防衛大学校長の

講演と海上自衛隊

呉地方総監部の協

力による艦艇見学

を実施し、OB、

現役及び家族を含

めて約100名が参加

しました

平成10年度春季

行事として春爛漫の4月に江田島の古鷹山登

山と海上自衛隊第1術科学校の参考館見学、

五月晴れの5月にテニス、新緑の6月にゴル

フを開催しました

参加者は、家族を含めて山登りは30名余り、

テニスは10名余り、ゴルフは、10組40名、延

べ80名余りが参加し、会員・家族及びOB・

現役相互の親睦、情報交換等を行い旧交を温

めました

なお、ゴルフコンペの成績は、優勝15期

(陸) 中田院也氏、第2位7期(海) 北山正

文氏、第3位海自幹部候補生学校長12期(海)

勝山拓氏でした

秋季行事として10月18日(日)海田駐屯地

でテニスを、10月25日(日)瀬野川GCでゴ

ルフを、11月7日(土)に三段峡ハイキング

を計画しております

この他地域同窓会として、自衛隊の部隊又

は機関等が実施する観桜会、創立記念行事及

び展示訓練等に積極的に参加しております

43 「防衛大学校事務局連絡先」

〒730-0014 広島市中区上鞆町2-

無料職業紹介所

(財) 自衛隊援護協会広島支部(退職自衛官

総務8期(海) 上手 義孝 TEL: FAX

082-223-6900



平成9年度 防衛大学校同窓会決算報告

防衛大学校同窓会会計監事
平成10年11月17日(単位:円)

収入	
予算	実績
2500000	
	広告代 630,00
	預貯金利息 1,433,775
2000000	預貯金利息 1,416,000
	積立金からの繰入 4,682,000
1500000	
	会費 (41期生他) 22,184,000
	会費 (41期生他) 22,446,800
1000000	
500000	
0	
収入計	予算—28,282,000 実績—24,510,575

支出	
予算	実績
2500000	
	事業部 7,000,000
	事業部 4,085,202
	総務部 4,860,000
	総務部 2,998,696
	広報部 3,850,000
	広報部 2,675,133
	人事部 572,000
	人事部 741,927
	経理部 8,800,000
	経理部 7,422,773
	委員会 3,200,000
	委員会 3,200,420
小計	予算—28,282,000 実績—21,124,151
繰次年度 繰越金度	(財産に繰り入れ) 実績—3,886,424
支出計	予算—28,282,000 実績—24,510,575

平成9年度予算使用実績(細部)

	科目	予算	実績
事業部	総会費(会場設営費)	1,800,000	1,492,641
	(通信費)	1,400,000	86,721
	(印刷費)	100,000	
	期生会支援費(45期生会助成)	100,000	100,000
	(42期生会助成)	100,000	100,000
	(各期生会助成)	500,000	50,000
	校友会対外活動助成費	1,000,000	272,420
	開校記念祭助成費	2,000,000	1,983,420
	小計	7,000,000	4,085,202
総務部	顕彰碑献花費	600,000	309,464
	慶弔費(供花)	350,000	193,933
	職員定年退職者記念費	100,000	130,641
	事務通信費	20,000	8,675
	複写機貸賃料	120,000	118,656
	電話・FAX維持費	870,000	366,273
	本部移転費	1,800,000	1,366,599
	小原台事務局運営費	300,000	2,000
	評議委員会運営費	700,000	502,455
	小計	4,860,000	2,998,696
広報部	機関紙発行費(作成)	800,000	
	(発送)	3,000,000	2,634,250
	事務通信費	50,000	40,883
小計	3,850,000	2,675,133	
人事部	事務機器費(パソコン等)	562,000	630,022
	事務通信費	10,000	111,905
	小計	572,000	741,927
経理部	会長運営費	500,000	200,000
	事務員雇用費	2,700,000	2,550,000
	本部事務局室貸賃料	2,400,000	2,397,049
	事務費	200,000	376,034
	通信費	200,000	77,975
	交通費	300,000	357,980
	会議費	500,000	270,556
	予備費	2,000,000	1,193,179
小計	8,800,000	7,422,773	
委員会	委員会活動費(事業推進委員会)	0	0
	(50周年記念事業委員会)	3,200,000	3,200,420
小計	3,200,000	3,200,420	
合計		28,282,000	21,124,151



ビーチ・キングエア 350

ジェットプロップの最高峰。

追従を許さない多用途性、高い信頼性、卓越した堅牢性を誇るキングエア・シリーズは世界各国の政府機関、軍、エアライン及びトップ企業でVIP輸送、偵察、飛行検査、捜索救難、訓練、患者移送やビジネス機として運航。



伊藤忠アビエーション株式会社
航空機営業部

〒107-0061 東京都港区北青山1丁目2-3
TEL: (03) 5414-8674 FAX: (03) 5414-8700

平成11年度 防衛大学校同窓会予算

防衛大学校同窓会経理部
平成10年12月8日(単位:円)

	項 目	11年度予算	10年度予算	10年度比
収 入	会 費 (43期生)	22,560,000	21,063,000	1,497,000
	預貯金利息	1,190,000	1,377,000	- 187,000
	広 告 代	未定	未定	
	同窓会名簿売上金	0	6,000,000	- 6,000,000
	積立金からの繰入	0	4,940,000	- 4,940,000
	収 入 計	23,750,000	33,380,000	- 9,630,000
支 出	事業計画の推進 (現職・OB会員交流)	1,000,000	500,000	500,000
	(同窓会主催親睦交流会開催)	500,000	300,000	200,000
	(相談窓口の設置)	50,000	200,000	- 150,000
	(講演会の実施)	0	500,000	- 500,000
	(会員の出版支援)	50,000	200,000	- 150,000
	(外国留学生OBとの連携)	300,000	100,000	200,000
	(全国的な情報網の整備)	50,000	200,000	- 150,000
	総 会 費	2,500,000	3,300,000	- 800,000
	期生会支援費 (47期生会助成)	100,000	100,000	0
	(43期生会助成)	100,000	100,000	0
	校友会対外活動助成費	1,000,000	1,000,000	0
	開校記念祭助成金	2,000,000	2,000,000	0
	顕彰碑献花費	600,000	600,000	0
	慶 弔 費 (供花、弔電)	350,000	350,000	0
	職員定年退職者記念品費	100,000	100,000	0
	複写機賃貸料	120,000	120,000	0
	電話・FAX維持費	500,000	720,000	- 220,000
	小原台事務局運営費	100,000	300,000	- 200,000
	代議員会運営費	700,000	700,000	0
	各期生会連絡調整費	300,000	500,000	- 200,000
	機関紙発行費	3,300,000	3,800,000	- 500,000
	同窓会名簿発行費 (作成費)	0	6,000,000	- 6,000,000
	(発送費)	0	1,350,000	- 1,350,000
	(郵便番号変更費)	0	50,000	- 50,000
	(発行案内広告費)	0	240,000	- 240,000
	同窓会名簿維持費	200,000	0	200,000
	会長運営費	500,000	500,000	0
	事務員雇用費	2,000,000	2,000,000	0
	本部事務局室賃貸料	2,750,000	2,750,000	0
	事 務 費	350,000	250,000	100,000
	通 信 費	150,000	250,000	- 100,000
	交 通 費	400,000	300,000	100,000
会 議 費	500,000	500,000	0	
予 備 費	1,680,000	2,000,000	- 320,000	
50周年記念事業委員会	1,500,000	1,500,000	0	
支 出 計	23,750,000	33,380,000	- 9,630,000	



Your Partner for Success

Mitsubishi Corporation
三菱商事

Head Office: 6-3, Marunouchi 2-chome, Chiyoda-ku, Tokyo 100-8086, Japan

